

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	69(分)	学 校 名	天竜高等学校春野校舎	校 長 名	渡邊 二三彦
------	-------	-------	------------	-------	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	多様な生徒に対する 学習指導体制を整え、 基礎学力の向上を図る。	・授業の進度はちょうど良いと答える生徒の割合（90%以上） ・先生は丁寧に教えてくれていると答える生徒の割合（90%以上） ・先生は授業でICT機器（クロームブックやプロジェクター）を活用していると答える生徒の割合（80%以上）	・「授業の進度はちょうど良いと答える生徒の割合」98.0% ・「先生は丁寧に教えてくれていると答える生徒の割合」98.0% ・「先生は授業でICT機器（クロームブックやプロジェクター）を活用していると答える生徒の割合」95.9%	A	・前年度とおおむね変化はなく、多くの生徒が前向きに授業に取り組んでいる。今後も適切な授業進度を考えて対応する。 ・少人数制を生かし、丁寧な授業を行っている。対話的な授業、質問しやすい雰囲気づくりを大切に授業を行う。 ・ICT機器の活用について、多くの授業でクロームブックやiPadを使用して授業を行っている。来年度からBYODが始まるため、授業の振り返りや、課題配信、生徒連絡などのオンライン化を図り、ICTのさらなる有効活用を模索する。
		・家庭学習時間の平均（平日45分以上）（テスト前90分以上） ・家庭学習時間調査（年4回実施）	・平日の平均55.8分、テスト前の平均118.3分 ・学習時間調査を年2回実施し、毎日のチェックと声掛けをした。	A	・家庭学習時間は前年度とおおむね変化なし。一方で、学校評価アンケートでは「家庭学習をしっかりとやっている」と答える生徒の割合が67.3%と低水準だった。次年度以降、課題の量や質を見直し、家庭学習時間のさらなる増加を図る。 ・学習時間調査を活用し、担任を通じて生徒への声掛けを行った。学習状況だけでなく、生活状況も把握できるため、今後も継続する。
イ	基本的生活習慣を身につけ、他者をいたわり、人間関係を大事にする心を養い、問題行動の未然防止を図る。	・安心して落ち着いた学校生活を送っていると答える生徒の割合（85%以上）	・安心して落ち着いた学校生活を送っていると答える生徒の割合87.8%	B	・SST講座での人間関係づくりの演習や各教職員の個に応じた声掛けを引き続き行う。
		・問題行動の件数を前年度より減少させる。（令和4年度1件1名）	・問題行動の件数が1件	B	・昨年度と問題行動の件数が同じであった。生徒の自己有用感をさらに醸成することにより問題行動を予防したい。

ウ	生徒一人ひとりに寄り添い、よりよい進路を見つけ、その実現を図る。	・進路についての指導が適切になされていると答える生徒の割合(85%以上)	・進路についての指導が適切になされていると答えた生徒の割合は98.0%であった。	B	・3年生の進路決定状況は例年並みである。 ・各自が希望する進路先に進めるよう面接指導、小論文指導、個別の補習を通年で行った。 ・進路検討会を開き適切な進路指導へ繋ぐことができた。 ・生徒の希望する進路とマッチングを考えた進路指導の更なる充実を図る。
		・進路講話や企業・学校見学、進路ガイダンスを実施(年3回以上)	・年3回の校内進路ガイダンスを実施 ・外部機関と連携した進路講座を実施。 ・インターンシップを実施	A	・学年に応じた進路行事を通して、生徒により確実な進路意識を持たせることができた。 ・自己理解と共に上級学校や職業等の研究と理解を深め、よりよい進路指導に繋がるような企画を次年度も行う。 ・インターンシップにおいて、地元企業との繋がりを念頭に参加企業と生徒の増加を図り、より高い進路意識を持たせていく。
エ	環境を整え、部活動、特別活動、読書活動において、充実感が得られるよう指導する。	・部活動に積極的に参加し充実していると答える生徒の割合(80%以上)	・部活動に積極的に参加し充実していると答えた生徒の割合が83.7%であった。	B	・部活動に意義を感じ、積極的に取り組んでいる生徒が昨年度より減少した。
		・学校行事が充実していると答える生徒の割合(85%以上)	・学校行事が充実していると答えた生徒の割合が93.9%であった。	A	・コロナ禍において制限が少しずつ解除された環境の中で、生徒会や委員会を中心に、主体的に学校行事に取り組む姿が見られた。
		・朝読書の時間は読書に親しむのに役立っていると答える生徒の割合(80%以上)	・朝読書の時間は読書に親しむのに役立っていると答える生徒の割合は49.0%だった。	C	・天竜文学賞の授賞者からサイン本が選考委員に贈られた。 ・交通事情により6月から朝読書と読書月間が実施できなかったが、天竜文学賞関連の本を読書感想文の課題図書としたことで補った。
オ	自己健康管理ができる生徒を育成するとともに、教育相談体制の充実を図る。	・保健関係たよりの発行(月1回) ・生徒の状況把握調査(年2回実施)	・保健関係たよりの発行及び生徒の状況把握調査を目標どおり実施した。	B	・生徒とつながりを持つことで、援助できる存在としてとらえてもらえる体制づくりをしていきたい。次年度も調査後の面談を実施したい。

様式第3号

		・先生は悩みや相談に親身になってくれると答える生徒の割合（85%以上） ・生徒サポート委員会（週1回程度開催）	・先生は悩みや相談に親身になってくれると答える生徒の割合100% ・生徒サポート委員会を15回程度実施した。	A	・SC、SSWと担任、学年との連携をさらに密にすることにより、生徒の困り感に寄り添うことができた。また、通級講師による研修会等により、支援体制についての知識の充実を図った。
カ	地域・保護者との連携を推進し、信頼される学校づくりを行う。	・地域との交流やボランティア活動をしていると答える生徒の割合（50%以上） ・春祭祭へのPTA役員出席率（90%以上）	・地域との交流やボランティア活動をした生徒の割合は61.2%だった。 ・春祭祭へのPTAの参加は中止となった。	B	・講演形式の研修会が再開され、役員の参加率は高かった。 ・遠方の研修をオンライン形式、近隣の研修を対面形式で併用をしていきたい。
		・春校だより発行（年間4回以上） ・HPの更新（毎月4回以上）	・春校だよりは年間4回発行した。 ・HPの更新は毎月2回以上行われた。	A	・春校だよりを予定どおり発行することができた。生徒の言葉を中心にした構成にし、見やすさを心掛けた。 ・今後も春野校舎の魅力を幅広く発信し続けていけるよう工夫していきたい。
		・監査/検査の文書指示/指摘件数（0件） ・校内での事故/災害箇所（0件）	・監査/検査の文書指示/指摘件数 0件 ・校内での事故/災害箇所 0件	A	・法令を遵守し適切な事務処理や効果的な予算執行を行うことができた。 ・校内巡視や環境整備を行い、校内での事故や災害箇所を防ぐことができた。職員間の連絡を密にして相互理解に努め、少人数体制での施設設備の効率的な管理を行う。
キ	地域資源を活用し、探究活動を通して社会性を育む。	・探究活動を仲間と協力しながら主体的に行ったと答える生徒の割合（80%以上） ・校外での探究活動が有意義であったと答える生徒の割合（80%以上）	・「探究活動を仲間と協力して主体的に行っている」と答える生徒の割合」87.8% ・「校外での探究活動が有意義であった」と答える生徒の割合」91.8%	A	・1学年は、春野地域で盛んな林業について学習した。調べ学習、職場見学、レポート作成等を通じて林業についての知識を深めることができた。 ・2学年は、通学に不可欠な秋葉バス及び遠鉄バスの秋葉線を各事業所の協力のもと調査して、新聞とすることができた。 ・3学年は、全国の秋葉山本宮由来の神社へアンケート調査を行い、協力を得て新聞にまとめることができた。

様式第3号

ク	校内の危機管理体制を整備するとともに、危機管理意識を向上させる。	・防災訓練実施（年3回） ・地域防災参加率（60%以上）	・防災訓練年間3回実施 ・地域防災訓練の参加率は27.5%	B	・防災訓練を4月、9月、3月に実施した。地域防災訓練不参加の生徒へは事後課題を実施した。土砂災害による交通遮断時への備蓄食料等の整備を今後も進める。
ケ	研修を通じて教職員の資質の向上を図るとともに、教職員の働き方改革を推進する。	・職員研修会の実施（年5回）	・ICT活用研修を1回、発達障害についての研修を1回、遠隔授業操作研修会を1回実施した。 ・職員会議後に年次研修報告会を2回実施した。	A	・9月から通級を開始したため、通級指導講師による「発達障害について」の研修会を行い、理解を深めた。また、9月以降の職員会議では、発達支援についてプリントを配付し、さらに理解を深めている。
		・不祥事根絶研修の実施（月1回）	・不祥事根絶に關係する研修会を年3回実施した。「コンプライアンス通信」での注意喚起を毎月1回程度実施した。	A	・事務長からの公金の取扱いについての研修会、「生徒提要」の読み合わせ、アンガーマネジメントについての小グループでの討論などを実施した。 ・毎回職員会議後に注意喚起を行い、教職員の不祥事根絶に対する意識を自分事として高めている。これからも内容を考えながら実施していく。
		・平均18:30までの退勤	・時期により教職員の退勤時刻は異なり、学期始め及び学期末は遅くなる傾向にある。長期休業期間の時間外勤務は少ない。	B	・毎週月曜日は定時退勤日であり、今年度はそれと呼びかけた。 ・退勤時刻が必要以上に遅くならないように、学校として、また、各教職員がこれからも業務内容を精選していく。